

円板状半月板 (オーバービュー)

橋本 祐介 (はしもと ゆうすけ)

大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科

円板状半月板は先天性な形状異常であり、本来三日月状の形が円板状になっている。それゆえに半月板異常可動性や半月板損傷が多くみられる。東洋人に多いと言われ、特に日本、韓国では多くの手術がなされている。幼少時では snapping という屈伸に伴う異常音が伴うことがあるが疼痛なく無症状で経過することが多い。10代前半に運動強度が強くなるにつれ、疼痛が出現し、手術療法が行われることがある。円板状半月板異常可動性の病態はすでに1948年に Smillie らが報告されており、半月板自体の異常可動性が症状と関係していると報告している。組織学的には正常半月板と違い、コラーゲン線維密度が疎でありランダムな走行であることが報告されている。それゆえに円板状半月板は力学的機能が正常には程遠い、貧弱な組織として認識され、長らくは視覚上損傷している組織を切除する部分切除、ともすれば亜全摘、全摘術が施行されていた。手術技術が向上するにつれ、近年では半月板温存手術が盛んに行われ、円板状半月板においても温存術が施行されてきた。本発表ではその歴史、現在一般化されつつある半月板温存手術の実際と今後解決すべき問題点を提示する。